

講義名	基礎簿記		
科目区分	学部専門基礎 選択必修		
担当教員	木村 敏夫		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 1時限		授業形態
履修開始年次	1年生	単位数	2

「経済単位が行う経済活動（経済的資源の配分）を、認識、測定、記録、計算、分類、整理、要約、報告する方法が「会計」である。その会計の技術的な側面を担うのが「簿記」と言える（帳簿記録の略称とも言われる）。簿記は会計の一側面として考える。簿記は会計の基礎構造「記録計算等」を理解することにある。「基礎簿記」はその対象を生産経済としての「企業」（会社）の「簿記」（企業複式簿記）に限定し、企業簿記の基礎構造「記録計算等」を理解することにある。生産経済を営む企業の「経済（事業）活動」を記録、計算、分類、整理する技術である企業複式簿記の仕組みを基礎から始める。「企業」の設立、営業の開始、営業活動、営業外活動、経済活動の成果を一定期間に区切り（決算）、これを報告書（財務諸表）に要約する方法が講義内容となる。経済活動を財務諸表に要約し、開示することが会社法などに会計諸規定されていることから、経済活動の認識測定報告等は会計諸法規（例えば、会社法、企業会計原則、企業会計基準等）と関連することから、一定範囲で会計規則等にも言及する。

到達目標
 会計機能のうち、「簿記」がもつ基本機能等を理解する。

提出課題
 予定していない。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
 予定していない。

評価の基準
 評価方法は中間試験（50％）・定期試験（50％）で行う。

履修にあたっての注意・助言他
 「簿記」は、一面技術である。技術は、時間をつかい習う、磨く必要がある。また、技術は、一旦、使わなくなると失われる可能性がある。したがって、受講者は、簿記の理解には会計現象の記録行為を各自で処理・学習する必要がある。

教科書	検定簿記講座3級商業簿記（2020年度版）	渡部・片山・北村編著	中央経済社	750
プリント資料及び参考文献	*必要に応じて、一部、プリントをポータル（PDF）または講義室で配布する。 【参考書】 ジャコブソール『帳簿の世界史』（文春文庫）*			

授業計画

- 第1講 簿記の定義・目的
- 第2講 複式簿記の構造（1）
- 第3講 複式簿記の構造（2）
- 第4講 簿記の言語・簿記における認識・測定
- 第5講 取引の記録と勘定の表示分類(1)
- 第6講 取引の記録と勘定の表示分類(2)
- 第7講 取引の記録と勘定の表示分類(3)
- 第8講 取引の記録と勘定の表示分類(4)
- 第9講 取引の記録と勘定の表示分類(5)
- 第10講 取引の記録と勘定の表示分類(6)
- 第11講 取引の記録と勘定の表示分類(7)
- 第12講 取引の記録と勘定の表示分類(8)
- 第13講 決算の処理(1)
- 第14講 決算の処理(2)
- 第15講 財務諸表の作成

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
 当然のことです。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考
 大学の講義は、学問・科目を「理解する」のが目的・目標とする。体系的な理解の後に、理解した知識をもとに、「考える」。これが「知恵」となる。知恵は自分でしか取得できない。与えられるものではない。学後知不足。学生は、「真似る」ことから始める。真似るとは、「書き写す」ことではない。書き写すは、著作権違反という、りっぱな窃盗犯罪です。